

- 祝、卒業！
- 学年末考査終了
- 合格速報会

新宿高校という「構造」

公民科 飯島博久

内田^{たつろ}樹氏（現代文の評論でもよく取り上げられますね）は著作『寝ながら学べる構造主義』の中で、構造主義について次のように述べています。「私たちはつねにある時代、ある地域、ある社会集団に属しており、その条件が私たちのものの見方、感じ方、考え方を基本的なところで決定している。だから、私たちは自分が思っているほど、自由に、あるいは主体的にもものを見ているわけではない…。倫理で学んだように（覚えていますか？）、構造主義者、特にレヴィ・ストロースは、主体的に社会に参加すること「アンガージュ」を前面に出したサルトルの実存主義に対する、アンチ・テーゼを示しましたね。

この見方をもとに、新宿高校という社会集団の「構造」について考えてみましょう。日本の首都東京の公立高校で進学指導特別推進校という立ち位置。「全員指導者たれ」とリーダーの育成を標榜している、「受験は団体戦」と称して「難関」大学進学が目標（まさに私が所属する進路指導部が発破をかける内容です）、文武両道を目指すため忙しい学校生活を強いられる、云々。その構造の中、私たちは暗黙のうちに朝のHRがない生活やチャイムと同時に始まる授業、部活動後の自習時間といった流れに身体が反応するようになっていきます。（新宿だけではありませんが）その背景として強調される価値観が「競争」です。大会やコンクールで、そして大学入試で勝ち抜くこと、成果には賞賛を！そして新宿高校と同じような構造や価値観を身体にまとった人たちが次のステップ、大学→営利企業や公官庁、会社経営者という集団に入っていくのです。そもそも根本には、自由競争を前提とする資本主義という構造があるのですが…。ところが社会に出ると、自分が育まれた構造とは異なる人たちや仕組み、文化と付き合っていかなければなりません。他者や異文化を排除すると人間の共同性は成立しませんし、場合によっては不信から紛争の種にもなりかねません。ゆえに多様性の認識が重要になります。

当たり前ですが、新宿高校の現実のみがリアルの状況ではない。自分を取り巻く構造の普遍性を強調するのではなく、高所から俯瞰し、他の構造との比較検討を試みてみましょう。課題に追われることもなく、歌舞伎町に夜半から明け方まで集まる君たちと同年代の若者がいます。コロナ禍とはいえ、高校生活を普通に送っている日本とは異なり、ウクライナではロシア軍に蹂躪され、国外に逃げ延びる人々があります。限定的な情報だとしても、国際情勢に敏感にアンテナを張り、異なる構造に対するイメージを膨らませておく。そのことで異なる構造に相対した時に狼狽して思考停止に陥ることなく、柔軟に対応できる。これが「指導者」の資質なのではないでしょうか（この発想自体が構造でしたが…）。そこで求められるものは寛容、協調性、思いやり、献身といった価値観、その根底となるのは他者の立場や行動の根拠を付度（決して悪い意味ではありません）していく、という他者性の認識だと考えます。資本主義のもと競争という価値観が前提となりますが、常に多様な価値観に敏感であって下さい。

□ 祝、卒業！

大学合格状況(現役 74 回生 3/23)現在)

国公立大学	人数
東京大	2
一橋大	7
東工大	4
京都大	1
上記 国公立難関四大学	14
その他国公立大	76
国公立大学 現役合格者数 計	91
私立大学	人数
早慶上智理科大 (早稲田・慶應義塾・上智・東京理科)	167
GMARCH (学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政)	363
成蹊・成城・武蔵・明治学院	75
日東駒専 (日本・東洋・駒沢・専修)	114

1月中旬の大学入学共通テストに始まった今年の大学入試も、いよいよ終盤です。現役生の3月23日現在の合格状況は表のとおりです。このほか、表には入っていませんが、浪人生も健闘しています。東大、一橋大、旭川医、東北大、お茶の水大などの国公立大学、早稲田大、慶応大、杏林大・医などの私立大学合格の知らせが、続々と届いています。新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、それに負けず入試に臨んだ新宿生の1年間の頑張りが実を結んでいます。

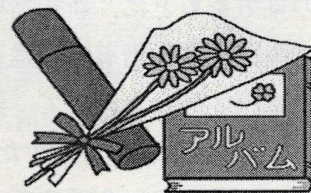
私大はここ数年、各大学で合格者数の絞り込みが行われており、自分の得意とする3教科に絞り込んで挑戦しても、必ずしも結果に

結びつくとは限りません。こうした傾向は今後も続くと思われれます。発表はほぼ終わっていますが、繰り上げ合格等で人数が変わる場合があります。新宿高校としての最終結果報告は4月に入ってからになります。

3年生諸君、そして浪人して頑張った73回生諸君の努力に大きな拍手を送ります。希望した進路に進む人、まだ結果が出ていない人、もう一度力をためてチャレンジを決意する人。4月からの進路はさまざまだと思いますが、どれも自分の人生です。自信と誇りをもって、前を向いて進んでください。

ご卒業おめでとうございます。皆さんの将来に幸多きことを、心からお祈りします。

卒業おめでとう



○学年末考査 終了

今年度最後の考査である、学年末考査が行われました。結果はどうだったでしょうか。満足のいく結果となったでしょうか。

学年末考査は、その直前の時期に勉強した内容だけでなく、今年度1年間の学習内容が総合的に出題されているはずです。どの教科においても、この学年末考査の解き直しがとても重要で、次年度に繋がるものです。しっかりと解き直し、自分の「分かっていないこと」の発見に利用しましょう。また、今年度の考査を振り返ってみると、自分の「ミスの傾向」も分かるはずです。時間配分、解答のペース、誤字・脱字、設問の読み間違い、勘違いや思い込み…。注意すれば解けた問題を落としていませんか？ 自分の犯しがちなミスを知ること、意識してミスを防ぐことができます。

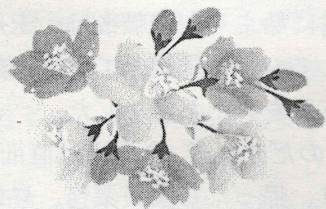
○合格速報会

3月23日に、合格速報会が行われました。1・2年生に向けて、卒業した3年生から、自身の志望校合格までの道のりを語っていただきました。先輩の生の声を聞くことができる貴重な内容でした。

講演してくれた先輩たちの経験談の中で印象的だったのが、「まとめノート」の存在です。日々の学習や問題演習の中で、何かわからないことがあったら「まとめノート」に書き留めておき、後で見返す。重要事項を自分なりの表現で「まとめノート」に記す。そこにあるのは一度間違えたことは二度と間違えない意気込みや、やりっぱなしにしない意識でした。模試の活用法、メンタルの維持、目標設定、計画の立て方…。これはほんの一例で、参考になることがたくさんありました。

皆さんにとって、「受験」は漠然と姿の見えないもので、だからこそそれに挑む不安も大きいでしょう。先輩方の経験談をしっかりと胸に刻んで、「受験」「志望校」「受験生活」のイメージを明確にし、今後の高校生活を有意義なものにしていきましょう。

講演者の遠藤さん(千葉大)、黒野さん(東大)、吉田さん(外大)、松浦さん(一橋大)、今永さん(千葉大・医)、中島さん(東工大)、越智さん(金沢大・医)、前川さん(北大)、進学前の忙しい時期にありがとうございました。



○どんな春休み、どんな新学期？

以前発行の「新宿通信」72号では、「自由な時間をどう過ごすか」について載せました。在校生の皆さんには、3月26日から4月5日まで、11日間の休業期間が待っています。各教科から出される課題は当然のこととして、それ以外にこの時間をどう過ごすか考えてみてください。

授業が終わった年度末、1・2年生はほっと一息つきたいところでしょうが、それと同時に、3年生の受験結果を見て、身の引き締まる思いもしていることでしょうか。そんな気持ちになったときがチャンスです。これまでの1年間の取りこぼしている部分、未消化の部分は、日々積み重なってしまいます。必ずこの春休みに補って、取り返しておきましょう。

4月には皆さんもひとつ進級して、新入生が入学してきます。学校の中心学年、もしくは最上級学年として、大切な1年です。未来の自分を助けるのか、苦しめてしまうのかは自分次第です！悔いのない高校生活を送れるよう、普段から心がけてください。

◆今後の予定

○修了式・離任式	3/25(金)
○始業式・着任式	4/6(水)
○避難訓練	4/6(水)
○入学式	4/7(木)
○対面式	4/8(金)
○特別考査(2年)	4/8(金)
○修学旅行(3年)	4/12(火)～15(金)

次ページの「先輩からの言葉」は、新宿高等学校同窓会である「朝陽会」の方々のご協力です。

毎号卒業生からご寄稿をいただいています。社会で活躍される皆さんの先輩方の貴重なメッセージです。

『自分で切り拓く人生』ではないけれど

さかえ幼稚園（福島県いわき市）園長

39回生 吉田 元

父の他界を機に、祖母の幼稚園を手伝うため福島県に移り住んで23年になろうとしています。

【震災・水害・コロナの10年】2011年、東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故に見舞われました。102歳の祖母を引き取っての介護、半壊した2教室の改築や園庭の除染、半年間外に出さない保育に加えて、私生活では小1・3歳・1歳のわが子を避難させるという矛盾にも悩みました。

令和元年（2019）東日本台風では床上50cm超の浸水。保護者や友人たちの懸命の復旧支援もむなしく、再開園の4日後にふたたび被害を受けました。去年は8月に園内で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、解除して間もなく、園バスがお年寄りの運転する乗用車に正面衝突。その2日後、サツマイモ畑にイノシシが侵入し、4割強の被害を受けました。私の人生って一体……？

【高校時代、いちどは壊れた】父の転勤で、通った小学校は4つ。「自分の頭の上には何か大きな力があって、決して逆らうことはできない」そんな風に育ちました。校内暴力から逃れたい一心で新宿高校の合格を勝ち取りました。意気揚々と入部した剣道部が6月の戸山戦に向けた猛稽古。恐怖感で勉強が手につかず、成績も急降下するに至り、年末に防具を担いで脱走。もう剣道なんてやらないはずなのに。

成績も自己肯定感も一気に下った高校生活でしたが、朝陽祭のクラスの演劇や、夜な夜な同級生と皇居を走って校長杯バッジを目指したマラソン大会など、勉強以外の分野に活路を見出しました。合唱コンクールでは指揮者をやらされ（部活がないから）、カセットテープにアルト・テノール・バス・テナーの4部を録音。部活に急ぐ級友を「一曲だけ歌ってくれ」と引き止め、雪の新宿御苑で追い込みの練習をした結果、金の《CHORUS》バッジを受賞！世田谷区民会館で3度宙に舞いました。

【そして、受験に】北海道大学の文3系に二度挑みました。東京が暑いから…という以上に、二次試験が英語と小論文だけ。それが、高3になるタイミングで5教科7科目から5教科5科目に削減された代わりに二次に数学が加わりました。得意科目の日本史（Z会でランクインしたことも）を活かし切ることのないまま同じ科目（英・数・論）の慶応の経済も併願。2年目は駿台に通いつつ、空いた時間は自転車で原宿・赤坂・六本木・芝公園・九段の図書館をはしごして勉強したのだけれど、現役一浪のベ1校受験して、唯一合格できた成城の法学部（俳優の及川光博さんと同じクラス）に進んだのでした。

【高校の宿題はいつまでも】勉強も部活も不完全燃焼の高校生活。やり残したことに追いかけるように建設業経理事務士（2級）や宅地建物取引主任者の取得に始まり、転職後は、玉川大学の通信課程で幼稚園教諭、それから大型バスの資格を取りました。そして、30歳過ぎても夢に剣道部の先輩が出てくるので「もう逃げられない」と思い詰め稽古を再開。五段をいただきました。

高校当時、放課後の部活がこわくて授業中寝だめしていたのだけれど、今思えば直面している現実（だけ）に集中するべきだった。現在は小学校の通学路の見守り、帰ったら園長業務、昼休みは畑仕事、時折呼び出されて娘の高校のPTA、月1回の補導員パトロール。瞬間・瞬間を完全燃焼する日々を過ごしています。そして、たび重なる災難。それでも園を投げ出さなかったのは、周囲の人たちと《思いを一つにする》合唱コンクールの体験が35年過ぎても自分の中に息づいているからだ強く感じます。

現役生のみなさんは《いつかのための》ではない《今日》を、《誰かのせい》ではない《自分の》人生を精一杯生き切ってください。水害の翌朝6時半（やれやれ）とため息をついていたら、病院の夜勤明けのママが「何から始めますか？」そこから復旧作業がスタートしました。苦しい時・悲しい時・困った時、誰かが必ずあなたのことを応援しています。私も遠い福島の空の下からエールを送りますよ！